

## 「全鍍連」 2016年 11月号 巻頭言

全鍍連副会長 神谷 篤 (有)竹田鍍金工業 代表取締役社長)

「季節に思うこと」



全鍍連副会長の神谷篤です。日頃より全鍍連活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。

さて、今回は普段なんとなく自分が思っていることを書いてみました。

前半すごしやすかったこの夏も、後半の厳しい残暑からの台風ラッシュでたいへんなことになりました。日本各地で避難生活を余儀なくされた方々がいたと聞いています。

異常気象もここまで多発するともはや異常ではなく普通のことなのでしょうか。

ところで、最近のテレビの天気予報といえば天気図ってあまりお目にかかりませんね。

たしか学校で習った記憶があります。

音の悪いラジオ放送を聞きながら地図の緯度経度を確認しながら気圧や風力、風向を記入していきます。等圧線をつなげて出来上がった天気図がまさに自分の居る場所の天気と関連付けられることに興奮を覚えました。

日々の天気の移り変わりはもとより、四季の変化もすべて天気図から読み取れます。

ところがこの天気図があまり放映されません。そんな記号と曲線の図を見たってわからないだろうから、「晴れ」とか「雨」とか絵で教えてあげますね・・・とされているような気がします。

さらにおかしなことに気がきました。

ある日の雨が翌日の早朝で降り止むとき、テレビの天気マークは、「雨」ですが、翌日は「晴」の右上に小さく傘がついていることがあります。私の感覚では、右上の小さい傘は、“翌日は朝から晴れて夕方また少し雨が降る”になってしまいます。日本では大気の流れから西から東に天気が移ります。天気予報の日付も左から右に移る表になっています。当然、早朝止むのであれば晴れマークの左側に小さな傘マークをつけるべきではないでしょうか？ 小さなことですが非常に違和感をもっています。

そして湿度も予報できないものなのでしょうか？ 数値化が難しいのであれば、“蒸し蒸し”とか“爽やか”でもいいので、予報に

付け加えたらわかりやすいのに・・・と思います。

連日最高気温更新、日本で一番暑い町とシツコク教えてくれますが、湿度のことはほとんど言われません。常々人間の感覚として気候は温度と湿度一体で考えるべきと思っています。温度がいくら高くても湿度が低いと割とすごしやすかったりします。逆に気温は低めでも湿度が高ければ非常に不快です。熱中症注意報等も湿度も絡めて出さないと片手落ちのような気がします。

たわいもない話になってしまいましたご容赦ください。